

平成17年度全国都市再生モデル調査 選定案件から ①

～ 国際交流と連携したまちづくり～ ～健康増進をテーマとするまちづくり～

○藤井寺 遣唐留学生の墓誌発見を契機とする中国との交流

- ・昨年10月、西安で、藤井寺出身といわれる遣唐留学生・井真成(いのまなり・734年没)の墓誌(「日本」の国号使用の最古の例)を発見。愛・地球博の中国館等での展示後、現在国内巡回展示中
- ・市民等を中心とする研究会が、中国の博物館に「里帰り」を要請、中国のテレビ局が藤井寺を取材するなど、民間交流に展開
- ・藤井寺市が市民等と連携し、歴史的資源を活かした都市観光、児童生徒への学習機会の創出等を調査検討



井真成の墓誌



○上士幌 花粉症患者等の健康回復と癒しの滞在保養地づくり

- ・スギ花粉ゼロという立地を活かし、イムノリゾート(免疫避暑地)という考え方による新たな滞在保養地づくりに着手



廃校を利用した健康センター



北海道大学の遺伝子病制御研究所。札幌国際大学と連携



上士幌町の観光資源



○出雲地域 「製鉄の伝来」をテーマとした日中韓の民間交流

- ・火力発電所の廃棄物のリサイクルの技術交流や特産物の経済交流
- ・2年後の世界遺産登録を目指している石見銀山の海外へのPR
- ・本年10月に友好都市提携の予定



たたら製鉄炉



○立山 大学と連携し、海外から集客する巨木森林ヒーリング観光

- ・本年4月ソウル特別市江北区と姉妹都市交流協定を締結
- ・立山主要施設への外国人観光者数H16は4万6千人超 (H15より倍増、特に台湾、韓国が増加)
- ・富山医科薬科大、富山県国際伝統医学センターが療養とヒーリング観光のプログラムを開発



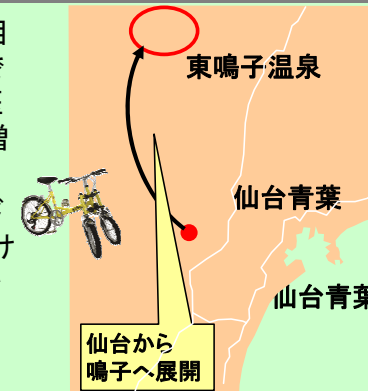
立山黒部アルペンルート



立山杉: 巨樹巨木によるヒーリング療法

○仙台・鳴子 国際産学連携による健康増進プログラム

- ・鳴子温泉の鉱泉に注目し、国際的な産学連携で創薬、温泉を活かした医療福祉サービス、健康増進器具の開発を推進
- ・大学と国内・フィンランドの産学連携で高齢者向けの乗り物であるトライクを世界で初めて実用化し、健康増進にも活用



東鳴子温泉

仙台青葉

仙台青葉

仙台から鳴子へ展開

仙台フィンランド健康福祉センタープロジェクト



東北大、宮城大、東北福祉大

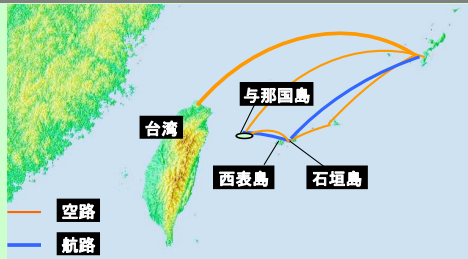
国際的な産学連携

フィンランドオウル大

フィンランド企業

○与那国 地理的特性を活かした防災・医療面等の国際交流

- ・現在は台湾との直接往来はないが、戦後直行航路があった頃、人口1万2千人以上(現在1,700人余)
- ・姉妹都市である対岸、台湾・花蓮市との直接的な運航の実現を目指し、国際観光の振興、防災や医療の国際的な相互支援などを推進



空路

航路

平成17年度全国都市再生モデル調査 選定提案から ②

～ 大学が核となるまちづくりの展開 ～

○ 大学のキャンパスその他研究教育の場を、まちづくりの課題に対応するための大学と地域のさまざまな協働の拠点と位置付け、活動を展開する取組

○ その他、大学人の地域に対する共同プロジェクトの提案等、大学の専門的知見を実地に活用し、都市や地域の課題に積極的に関わろうとする取組

○ 柏・流山(東京大・千葉大)

産学官連携により、
・胎児や子どもを有害な化学物質から守る生活環境づくり(千葉大)
・移動時の安全性確保、高齢者や外国人等のための情報提供等に資する新システムの開発・実証(東京大)
・外国人研究者・留学生のニーズと住宅供給の効率的なマッチングシステム構築(東京大・千葉大)

○ 岩見沢(北海道教育大)

大学再編を契機とし、新たに設置される教員養成分野に限定しない芸術・スポーツ専門校と、まち全体が関わりを持ち、協働する新たな学園都市づくり

○ 秋田(県内13大学連携)

地域の全大学が建築、交通、経済、福祉等専門分野を持ち寄り、行政との連携体制を整備し、一丸となって美しいまちづくりを推進

○ 新宿(早稲田大)

地域の歴史文化を活かし、市街地の賑わい創出、緑化、起業支援等多面的な協働により、キャンパスと周辺が一体となった再整備

○ 高崎(高崎経済大等)

市内6大学等の連携により、中心市街地におけるサテライト教室の設置や学生向け住宅の供給等のPFIプロジェクト具体化

○ 小田原(東海大)

商店街・市民組織・大学学生等が双方向に交流できるサテライト教室設置を試行し、メインストリートの現実的かつ段階的改善プログラム策定

○ 印西(東京電機大)

高齢者や主婦などこれまで光の当たらなかった階層を含む新規起業や産業再生の支援体制構築

○ 寝屋川(大阪電通大)

ゲームソフト・CG分野の先端的大学の有する技術を、行政サービスの高度化や地域産業の振興に実地に活用

○ 前原(九州大)

学生、研究者、留学生等の居住、交流、研究実証フィールドの提供を有機的に展開できる新たな「大学前町」の形成

○ 青森(弘前大)

郊外からまちなかへの円滑な住み替え促進システムの構築

○ 舞鶴(立命館大)

地元企業の優れた水環境技術等の北東アジア地域とのビジネスマッチングと交流拡大

○ 朝来・養父(神戸大)

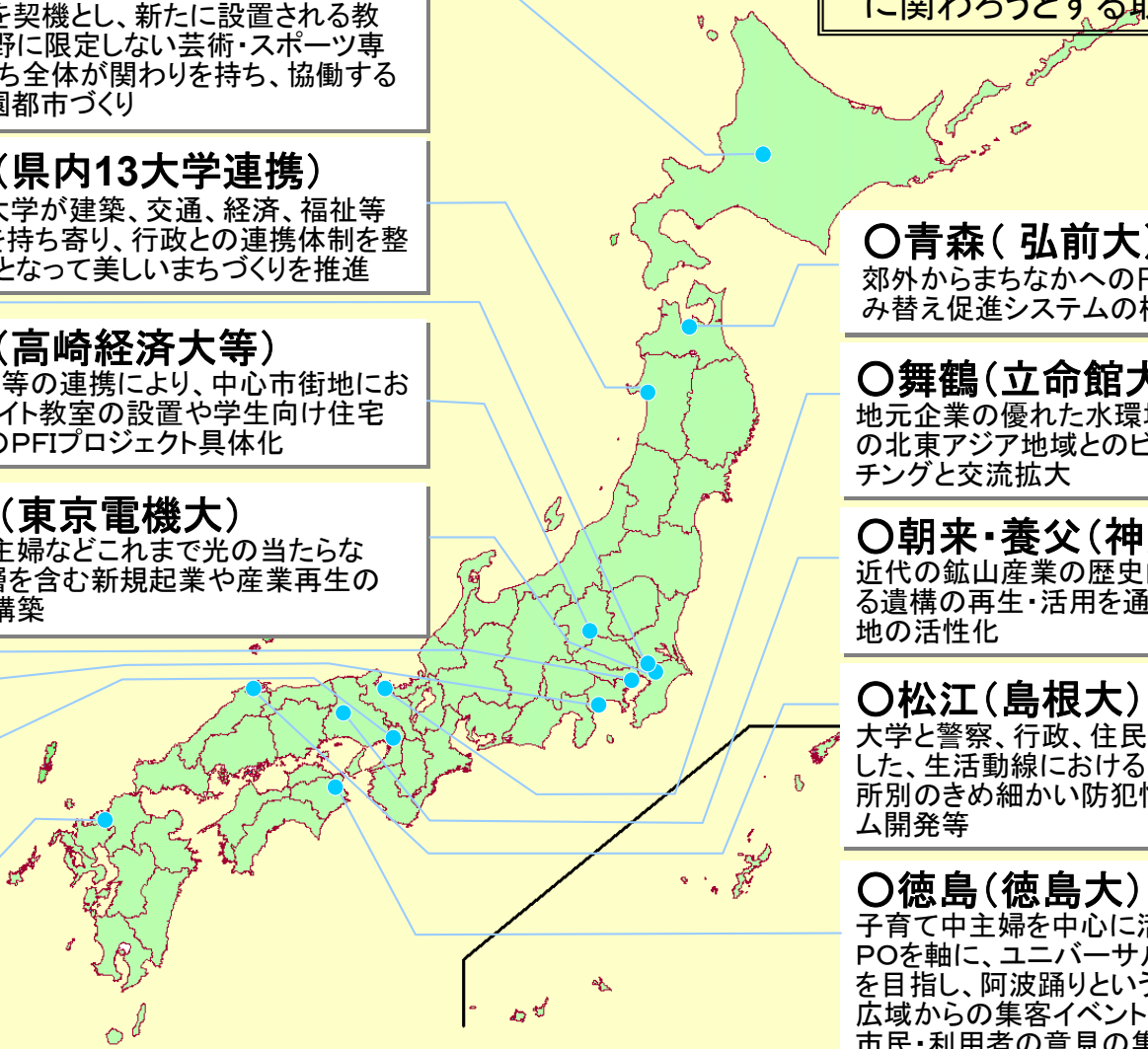
近代の鉱山産業の歴史的価値ある遺構の再生・活用を通じた市街地の活性化

○ 松江(島根大)

大学と警察、行政、住民等が連携した、生活動線における時間別・場所別のきめ細かい防犯情報システム開発等

○ 徳島(徳島大)

子育て中主婦を中心に活動するNPOを軸に、ユニバーサルデザインを目指し、阿波踊りという大規模な広域からの集客イベントを活用した市民・利用者の意見の集約、合意形成、調整等

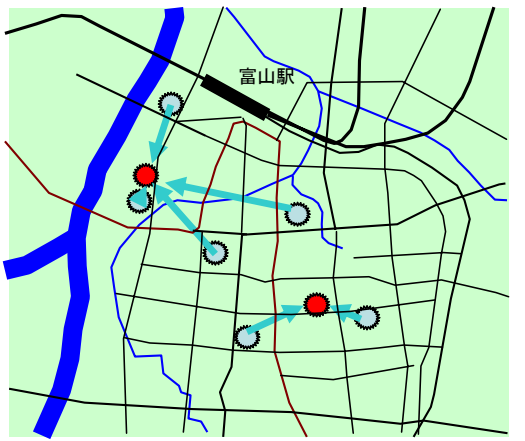


平成17年度全国都市再生モデル調査 選定提案から ④

～ 地方都市の中心市街地の活力再生に向けた取組(例) ～

○富山

富山市中心部において、平成20年4月までに、小学校6校が廃校予定。地域の居住支援や活性化のための利活用に向け、市民参加等により方針の確立



○久留米

中心市街地における高齢者のまちなか居住環境整備のため、既存ストック活用

○伊万里

地域の伝統的工芸品を活かした「表にとびだした美術館」の実施を通じ、活力の低下した都市の魅力の再生や観光の振興

○佐世保

中心市街地と周辺部斜面地等との移手段について、高齢者や市民等の利用に配慮しつつ、新規交通手段の整備やサービスの充実

○佐伯

中心市街地における大規模店舗跡地の利用方針について、当初から市民が参加しつつ策定、試行的な活用

○加賀

歴史的な建築物等の残る中心市街地において、町家を多様に活用した居住促進

○周南

中心市街地における居住促進のため、駅周辺の空地、空家等既存ストックを有効活用した住宅供給

○高知

中心市街地の再生に向け、県外地権者との調整等を中心立的な立場で行う手法により、空きビル問題を打開

○青森

コンパクトなまちを目指し、大学と連携しつつ、地域内での住み替えの円滑化等に向けた取り組みを展開

○大館

中心市街地において、民間活力を活用した公営住宅の建替えと、大型空き店舗の福祉施設等としての活用を一体的に展開

○塩沢

空き店舗等既存遊休施設の活用等を通じ、スキー観光で賑わう地区と、既成市街地をあわせて活性化

○姫路

中心市街地において、歩行者・自転車専用ゾーンの設定や、案内システムの構築

○宝塚

再開発ビルの空き床スペースを活用した地域住民の福祉・生活サービス等の拠点整備

○室蘭

地元企業が環境関連の独自技術等を通じて地域住民と連携することにより、地域の活性化を図る

○水沢

事業実施の停滞する既成市街地において、まちの適正な管理(マネージメント)方法・体制の確立

○足利

歴史的建築物等を活かした観光プログラムの開発等を通じた市街地内の交流人口の増大等

○高崎

地域の複数の大学との連携により、サテライト教室の設置や学生向け住宅の供給等

○岐阜

中心市街地における居住促進と環境整備のため、規制誘導措置の適用等の条件整備

○沖縄

独自の音楽文化を活かし、公益施設の有効活用や市民の参加を通じて、まち全体を芸術・文化活動の場とすることで、交流の推進

